

## 美学・西洋美術史専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
美学特論 I	西洋美学:目の体験、目の思想	2	MARINUCCI LORENZ	後期 水曜日 2講時	
美学・西洋美術史特論 I	笑えるルネサンス美術	2	足達 薫	前期 月曜日 3講時	
美学・西洋美術史特論 II	エロティックなルネサンス美術	2	足達 薫	後期 月曜日 3講時	
芸術学特論 I	ギリシア・ローマ美術と水	2	芳賀 京子	前期集中 その他 連講	
美学・西洋美術史研究演習 I	西洋美術研究(基本編)	2	足達 薫	前期 金曜日 5講時	
美学・西洋美術史研究演習 II	西洋美術研究(発展編)	2	足達 薫	後期 金曜日 5講時	
美学研究演習 I	美と儂さ	2	MARINUCCI LORENZ	前期 木曜日 5講時	

科目名：美学特論 I / Aesthetics (Advanced Lecture I)

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：MARINUCCI LORENZ

コード：LM23204, 科目ナンバリング：LIH-ART606J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：西洋美学：目の体験、目の思想
2. Course Title (授業題目)：Western Aesthetics: Eyes that see, eyes that think
3. 授業の目的と概要：西洋美学の主な概念や問題を招待したら、西洋美学とアートにおける「見ること」と「目」に関する色々な考察に焦点する。特に M. メルロポンティの「眼と精神」とその美術論を授業の終わりに論じられる。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：After introducing the general concepts and the main problems of aesthetics, the course will focus on Western reflections on sight and on the “eye” in a philosophical and artistic context. In particular, by the end of the course we will read and discuss “Eye and Mind” by M. Merleau-Ponty.
5. 学習の到達目標：ほとんど視覚的に美術作品に接近する生徒さんがその「視覚中心主義」の歴史的・哲学的な発展を理解させて、種々の美術的な時期における「みること」の相違や意義について考えさせること。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：As the student approach artwork in a mostly visual way throughout their study, the aim of this course is making them realize the historical and philosophical background of this “ocularcentrism”, and appreciate the different kinds of “looking” in different artistic age.
7. 授業の内容・方法と進度予定：  
授業の主な資料はスライドである。授業の後、Classroom にアップロードされる。  
  
1 美学というのは・授業入門  
2 美学概論 美の色々な逆説  
3 美学の主な説「美」「快樂」  
4 美学の主な説「感情」「無関心」  
5 味方の教育・注意と反省  
6 西洋視覚中心主義の由来  
7 プラトンにおける視覚  
8 近代と視覚の革命  
9 近代芸術と遠近法の意義  
10 ジェイの「うつむく目」  
11 現象学とメルロポンティの思想  
12 「眼と精神」1  
13 「眼と精神」2  
14 「眼と精神」3  
15 「眼と精神」4  
16 試験
8. 成績評価方法：  
期末テスト(持ち込みなし)によって評価する。
9. 教科書および参考書：  
B. Nanay “Aesthetics. A Very Short Introduction”  
M. メルロポンティ「眼と精神」
10. 授業時間外学習：無し
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○”Indicates the practicalbusiness  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：美学・西洋美術史特論 I / Aesthetics and History of European Fine Arts (Advanced Lect

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：足達 薫

コード：LM11309, 科目ナンバリング：LIH-ART607J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：笑えるルネサンス美術

2. Course Title (授業題目) : Humour in Renaissance Art

3. 授業の目的と概要：美術という日本語に含まれた「美」という言葉は、しばしば、絵画や彫刻が美がかりでなく、もっと多様な感覚を生み出すという事実を忘れさせてしまいます。しかし、古代から現代まで、絵画や彫刻は笑いをも生み出してきました。この授業では、イタリア・ルネサンス美術を素材にして、視覚的ユーモアがいかにして生起していったかを具体的な作品を通じて理解します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : The word "beauty" in the Japanese word "art" often makes us forget the fact that paintings and sculptures create not only beauty but also more diverse senses. However, from ancient times to the present, painting and sculpture have also produced laughter. In this class, we will look at Italian Renaissance art to understand how visual humor emerged through specific works.

5. 学習の到達目標：美術作品を歴史的な脈に位置づけて分析する視点と方法を理解する。

15～16 世紀イタリアの興味深い美術作品についての知識を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : Understand the perspectives and methods of analyzing works of art by placing them in historical contexts.

To understand the flow of major works of Italian art in the 15th and 16th centuries.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は対面授業を予定していますが（2023 年 2 月現在）、状況により変更もありえます。

1：プロローグ——イメージで笑わせるためのいくつかの例

2：ルネサンス文化における笑い

3：笑わせるためのいくつかの方法——アリストテレス『詩学』を起点として

4：エロス (1)

5：エロス (2)

6：パロディ (1)

7：パロディ (2)

8：逆転 (1)

9：逆転 (2)

10：連想 (1)

11：連想 (2)

12：皮肉 (1)

13：皮肉 (2)

14：誇張 (1)

15：誇張 (2)

(註 1：資料作成の過程で発見した事例に基づいて予定や各回のテーマを入れ替えたり修正したりすることがあります)

(註 2：この授業では、今から見れば差別的だったりエロティックであったりする作品や描写がしばしば取り上げられます。特に、女性と男性の露骨な裸体や性的部位が現れる点について、受講する場合はご了承ください)

8. 成績評価方法：

毎回の授業でのコメントアンケート（方式は考え中。授業で示します）および全体を通じた最終ミニレポートを総合して評価します。

9. 教科書および参考書：

授業で指示します。

10. 授業時間外学習：配布資料をヒントにしながら、授業で取り上げた名作や問題作をインターネットや画集で見直すと、記憶と理解が深まりますのでおすすめです。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

この授業では、今から見れば差別的だったりエロティックであったりする作品や描写がしばしば取り上げられます。特に、女性と男性の露骨な裸体や性的部位が現れる点について、受講する場合はご了承ください。

メールアドレスは kaoru.adachi.d1●tohoku.ac.jp です。(●は@)

科目名：美学・西洋美術史特論Ⅱ／Aesthetics and History of European Fine Arts (Advanced Lect

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：足達 薫

コード：LM21308, 科目ナンバリング：LIH-ART608J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：エロティックなルネサンス美術

2. Course Title (授業題目)：Eros in Renaissance Art

3. 授業の目的と概要：近年、イタリア・ルネサンス美術の研究では、同時代の「エロティック革命」(性愛やそれが産み出すユーモアを肯定的に捉える新しい文化的意識)との関連性が注目され、多くの新しい発見がなされています。この授業では、美術と身体的愛が強く結びついた興味深い事例を分析しながら、イタリア・ルネサンスに関する新しい観点と研究方法を学びます。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In recent years, research on Italian Renaissance art has focused on the relationships with the 'erotic revolution' (a new cultural consciousness that positively considers sexuality and the humor it produces), and has made many new discoveries. In this class, students learn new perspectives and research methods on the Italian Renaissance while analyzing interesting cases where art and physical love are firmly linked.

5. 学習の到達目標：(1) イタリア・ルネサンス美術を「エロティック革命」として捉える新しい研究動向を理解すること。(2) 身体的愛に関連する絵画や彫刻を視覚的に分析するための観点および方法を習得すること。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To understand new research trends that regard the Italian Renaissance art as an 'erotic revolution'. (2) To learn viewpoints and methods for visually analyzing paintings and sculptures related to physical love.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は対面授業を予定していますが(2023年2月現在)、状況により変更もありえます。

なお、資料作成の過程で内容および順番を変更することがあります。また、性行為や性的部位を露骨に表す描写や作品はしばしば差別的であり、不快感を与える可能性があること(授業では可能な限り中立的で客観的に解説します)を理解したうえで受講してください。

1. プロローグ：チェッリーニ『自伝』における美術と愛
2. 展覧会「ルネサンス期イタリアにおける美術と愛」(2008)の意味
3. 古代彫刻の魅惑と魔力
4. オウィディウス『変身物語』とイタリア・ルネサンス
5. 聖愛と俗愛のパラドックス
6. 生活空間(1)：恋人たちの寝室
7. 生活空間(2)：書斎
8. 生活空間(3)浴室
9. 生活空間(3)出産
10. 愛のメディアとしての肖像画
11. 男根礼賛
12. 同性愛のイメージ
13. キリストのセクシュアリティ
14. ボルノグラフィの誕生
15. エピローグ：再びチェッリーニ『自伝』へ

8. 成績評価方法：

毎回の授業でのコメントアンケート(方式は考え中。授業で示します)および全体を通じた最終ミニレポートを総合して評価します。

9. 教科書および参考書：

授業で指示します。

10. 授業時間外学習：配布資料をヒントにしなが、授業で取り上げた名作や問題作をインターネットや画集で見直すと、記憶と理解が深まりますのでおすすめです。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

この授業では、今から見れば差別的だったりエロティックであったりする作品や描写がしばしば取り上げられます。特に、女性と男性の露骨な裸体や性的部位が現れる点について、受講する場合はご了承ください。

メールアドレスはkaoru.adachi.d1●tohoku.ac.jpです。(●は@)

科目名：芸術学特論 I / Aesthetics and Arts (Advanced Lecture I)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

Semester：1 学期集中 単位数：2

担当教員：芳賀 京子

コード：LM98811, 科目ナンバリング：LIH-ART609J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ギリシア・ローマ美術と水

2. Course Title (授業題目)：Water and Greek and Roman Art

3. 授業の目的と概要：古代ギリシア・ローマ世界の人々は海に親しみ、広く地中海を航海した。彼らはまた、生活のなかの水を管理する高い技術を有していた。海や水は美術のなかでさまざまに表現されるとともに、建築や庭園のなかに取り込まれて複合的美術を作り出した。水という切り口から、古代ギリシア・ローマの美術を概観することを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：People of the ancient Greek and Roman world lived closely with the sea and sailed across the Mediterranean Sea. They also possessed high technology in managing water of their daily lives. The sea and water were represented in various ways in ancient art, and was incorporated into architecture and gardens to create complex art. The purpose of this class is to overview the art of ancient Greece and Rome from the perspective of water.

5. 学習の到達目標：古代ギリシア・ローマ美術の概要を理解するとともに、古代における水の役割や象徴性を知る

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The goals of this class are to understand the outline of Greek and Roman art and to obtain the knowledge about roles and symbolism of water in antiquity.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. ミノス・ミュケナイ美術と海
3. ギリシア陶器と水
4. 海と川の神々と怪物
5. 都市アテネの水
6. 祭礼と水
7. 古代ギリシアの沐浴
8. ヘレニズム都市と治水の表現
9. 航海の守護女神
10. 海浜風景画
11. 古代ローマ水道と住宅・庭園
12. ローマ浴場と美術 (1)
13. ローマ浴場と美術 (2)
14. ローマ浴場と美術 (3)
15. まとめ

8. 成績評価方法：

レポートによる

9. 教科書および参考書：

参考書

芳賀京子・芳賀満『西洋美術の歴史1 古代 - ギリシアとローマ、美の曙光』中央公論新社、2017年

10. 授業時間外学習：上記の参考書や、授業中に紹介する参考文献を含めて知識を深め、最終レポートの準備を進めること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：美学・西洋美術史研究演習 I / Aesthetics and History of European Fine Arts (Advanced Semi

曜日・講時：前期 金曜日 5 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：足達 薫

コード：LM15504, 科目ナンバリング：LIH-ART612J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：西洋美術研究（基本編）

2. Course Title (授業題目) : Research on Western Art (Basic Course)

3. 授業の目的と概要：古代から現代までの西洋美術史を対象にして、英語の研究論文を読解しながら、作品や作家についての「問い」を立てて調査および分析を行い、先行研究を踏まえた発表を行います。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : While reading English research papers on the history of Western art from ancient times to the present, we will raise 'questions' about works and writers, conduct research and analysis, and make presentations based on previous research.

5. 学習の到達目標：西洋美術に関する基本的な方法と用語を習得し、作品の分析と「問い」の設定（立論）、研究発表の方法を理解すること。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : To master the basic methods and terms related to Western art, and to understand how to analyze works, set 'questions' (arguments), and present research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は「対面授業」を予定しています(2023年2月現在)が、状況により変更もありえます。

1: ガイダンス (1) 研究の目的とこれからの予定

2: ガイダンス 2) 「問い」をいかに立て、先行研究に向き合うか

3: 発表と議論

4: 発表と議論

5: 発表と議論

6: 発表と議論

7: 発表と議論

8: 発表と議論

9: 発表と議論

10: 発表と議論

11: 発表と議論

12: 発表と議論

13: 発表と議論

14: 発表と議論

15: 発表と議論

(注：発表のための準備および文献調査のために順番を入れ替えることがあります)

8. 成績評価方法：

発表の到達度および授業での議論への参加度を総合して評価します。

9. 教科書および参考書：

読解する英語の研究論文は授業の中で決定し、配布（またはダウンロード先を指示）します。

10. 授業時間外学習：発表者は先行研究の調査、読解、翻訳（全訳）、発表のための資料作成を行います。受講生はあらかじめ授業で取り上げられる主な作家や作品について各自で調査し、基本的な理解を深めておきます。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

美学・西洋美術史専攻の所属学生は後期も連続して履修すること。

出席が義務となりますので、やむを得ず欠席する場合は必ず事前に連絡してください（他の講義、演習などの時間を通じてでも OK です）。また、課題を進める上での質問や相談があれば、とくに 毎週水曜日 13:00~14:00 に研究室へ、または次の E メールへご連絡ください。 kaoru.adachi.d1●tohoku.ac.jp （●は@に変えて送信してください）。

科目名：美学・西洋美術史研究演習Ⅱ／Aesthetics and History of European Fine Arts (Advanced Semi

曜日・講時：後期 金曜日 5講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：足達 薫

コード：LM25504, 科目ナンバリング：LIH-ART613J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：西洋美術研究（発展編）

2. Course Title (授業題目)：Research on Western Art (Developmental Course)

3. 授業の目的と概要：古代から現代までの西洋美術史を対象にして、英語の研究論文を読解しながら、作品や作家についての「問い」を立てて調査および分析を行い、先行研究を踏まえた発表を行います。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：While reading English research papers on the history of Western art from ancient times to the present, we will raise 'questions' about works and writers, conduct research and analysis, and make presentations based on previous research.

5. 学習の到達目標：西洋美術に関する基本的な方法と用語を習得し、作品の分析と「問い」の設定（立論）、研究発表の方法を理解すること。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：To master the basic methods and terms related to Western art, and to understand how to analyze works, set 'questions' (arguments), and present research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は「対面授業」を予定しています(2023年2月現在)が、状況により変更もありえます。

1：ガイダンス(1) 研究の目的とこれからの予定

2：ガイダンス2)「問い」をいかに立て、先行研究に向き合うか

3：発表と議論

4：発表と議論

5：発表と議論

6：発表と議論

7：発表と議論

8：発表と議論

9：発表と議論

10：発表と議論

11：発表と議論

12：発表と議論

13：発表と議論

14：発表と議論

15：発表と議論

(注：発表のための準備および文献調査のために順番を入れ替えることがあります)

8. 成績評価方法：

発表の到達度および授業での議論への参加度を総合して評価します。

9. 教科書および参考書：

読解する英語の研究論文は授業の中で決定し、配布（またはダウンロード先を指示）します。

10. 授業時間外学習：発表者は先行研究の調査、読解、翻訳（全訳）、発表のための資料作成を行います。受講生はあらかじめ授業で取り上げられる主な作家や作品について各自で調査し、基本的な理解を深めておきます。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

美学・西洋美術史専攻の所属学生は前期から連続して履修すること。

出席が義務となりますので、やむを得ず欠席する場合は必ず事前に連絡してください（他の講義、演習などの時間を通じてでもOKです）。また、課題を進める上での質問や相談があれば、とくに 毎週水曜日 13:00~14:00 に研究室へ、または次の Eメールへご連絡ください。 kaoru.adachi.d1●tohoku.ac.jp （●は@に変えて送信してください）。

科目名：美学研究演習Ⅰ／Aesthetics(Advanced SeminarⅠ)

曜日・講時：前期 木曜日 5講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：MARINUCCI LORENZ

コード：LM14501, 科目ナンバリング：LIH-ART614J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美と儚さ
2. Course Title (授業題目)：The Impermanence of Beauty
3. 授業の目的と概要：西洋と近代日本の美学者の作品を読みながら、「美」における永遠性と無常の理想について考えること。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Reading the work of European and Japanese aestheticians, we will discuss how both eternity and impermanence are connected to the experience of Beauty.
5. 学習の到達目標：「儚さ」の美的な問題を接近し、色々な著者や文化的な環境を通してそれについて考えて、自分の研究でも適用すること
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The theme of impermanence and its relevance for aesthetics will be discussed through several authors and cultural contexts, and applied meaningfully to the students' personal research.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  - 1-6 精読 Von der Hinfälligkeit des Schönen und der Abenteuerlichkeit des Künstlers, Oskar Becker (ドイツ語の原文と和訳で)
  
  - 7-12 精読 唐木順三 「無常」
  
  - 13-16 発表と議論
8. 成績評価方法：

発表
9. 教科書および参考書：

Von der Hinfälligkeit des Schönen und der Abenteuerlichkeit des Künstlers, Oskar Becker (ドイツ語の原文と和訳で)  
唐木順三 「無常」
10. 授業時間外学習：無し
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：